

抜群の増体能力を持つ新しい種雄牛「<sup>ふくしげみつ</sup>福茂光」号

[背景と目的]

種雄牛は、肉用牛改良を促進するとともに、本県銘柄「常陸牛」の品質を安定させるうえで極めて重要な役割を担っています。肉用牛研究所は増体・肉量・肉質などに優れた種雄牛の凍結精液を農家の方々に供給し所得向上を支援しています。

[主な成果]

平成 24 年度に能力調査が終了した種雄牛「福茂光」号の遺伝能力は、ロース芯面積以外は県平均を上回りました。特に枝肉重量は、これまで調査したなかで歴代トップとなる極めて高い遺伝能力を持っていることが判明しました。(表-1 及び 2)

[期待される効果]

- ・「福茂光」号は増体能力に特化した種雄牛として、発育の良い子牛生産と枝肉重量のとれる肉用牛生産が期待できます。
- ・平成 24 年 7 月から本格的に凍結精液の生産と供給を開始しました。
- ・凍結精液の供給は県内を主体に行っていますが、全国的に配布できる体制をとっています。
- ・県種雄牛に関する子牛取引状況、枝肉の格付状況は畜産センターのホームページ上で情報提供しています。

表-1 「福茂光」の現場後代検定における格付成績

	枝肉重量	日齢枝肉重量	ロース芯面積	ハウの厚さ	脂肪交雑
	kg	kg	cm <sup>2</sup>	cm	BMSNo.
全国平均	434.0	0.52	55.0	7.6	5.1
福茂光	504.0	0.58	56.7	8.4	5.7

注)現場後代検定:(公社)全国和牛登録協会が定めた種雄牛の能力調査方法

注)全国平均:平成24年度広域後代検定事業により評価された検定終了種雄牛58頭の平均で、農水省と(独)家畜改良センターがとりまとめたもの。

表-2 「福茂光」の遺伝能力(育種価推定値,平成25年1月推定)

		枝肉重量	ロース芯面積	ハウの厚さ	脂肪交雑
		kg	cm <sup>2</sup>	cm	BMSNo
福茂光		+95.094	+5.621	+1.099	+1.577
参考	北国関7	+61.942	+13.089	+1.531	+2.473
	県平均値	+22.916	+6.878	+0.472	+1.384

注:北国関7は脂肪交雑に優れた種雄牛



福茂光